

VISION

人と人、人と社会、
人と明日をつなぐ
笑顔の環を届けます。

CHAPTER 03

ステークホルダーとの 創出価値

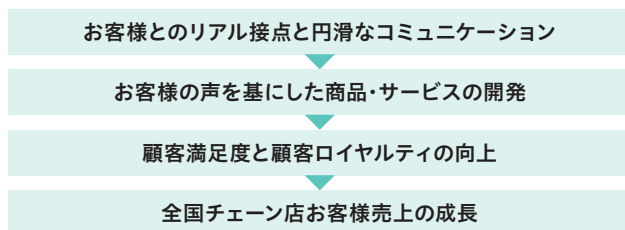
ステークホルダーの皆様と密接なコミュニケーションを取りながら
ニーズや課題を的確に把握し、事業活動を通じて柔軟に対応して
いきます。地域社会との共存共栄を目指し、お客様、社員、加盟店、
取引先、株主といったすべてのステークホルダーとともに明るい未来
を創造し、更なる企業価値の向上と持続可能な社会の実現に貢献し
ていきます。

お客様とともに

基本的な考え方

当社は、お客様の声を取り入れることで、ライフスタイルや社会情勢の変化に柔軟に対応したビジネスモデルの構築や、お客様のニーズを捉えた商品・サービスの提供に取り組んでいます。

▶ 価値協創フロー



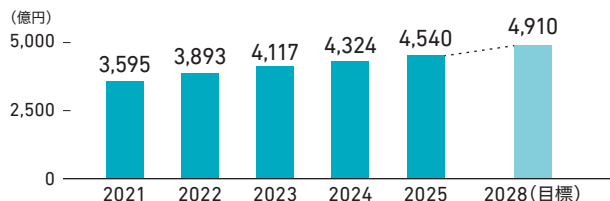
▶ マテリアリティ・KPI

マテリアリティ

顧客体験価値(CX)の最大化

主な指標	2025年3月期実績	2028年3月期目標
全国チェーン店お客様売上	4,540億円	4,910億円

● 全国チェーン店お客様売上(各年3月期)



訪販グループ

お客様の「キレイ・健康」を守るコア技術

当社では生活者のお困りごとの改善を第一に、商品・サービスの研究に取り組んでいます。

ダストコントロール製品開発で培った4つの基幹技術をベースに、複合的な機能を持つ多彩な製品を提供し、キレイを通してお客様の健康と快適な暮らしの貢献を目指します。

フードグループ

お客様に「おいしい安心」を届ける開発プロセス

おいしさへのこだわりはもちろん、安全・安心の追求にも余念がありません。商品の開発段階から、ショップでお客様の手に渡るまで、すべての段階で厳しい衛生管理・チェック体制を整えています。どのプロセスでも決して手をゆるめないからこそ、お客様に安全・安心とおいしさを約束します。

お客様とのコミュニケーション

「ダスキンコンタクトセンター」「ミスタードーナツお客さまセンター」では、商品やサービスについてのお客様のご意見やご要望をお聞かしています。オペレーターがお聞きしたお客様からの情報やニーズを各事業部門の担当者がタイムリーに把握することで、より良い商品やサービスの提供につなげていく体制を整備しています。

① 吸着剤技術 [捕集力・保持力]



ホコリをキャッチして包み込み、離しません。含まれている抗菌剤と防カビ剤が増殖を抑制。

② 洗浄加工技術



高性能で均質な製品を生み出すために欠かせない、ダスキンが誇るプロセス技術。

コア技術

③ 素材加工技術 [パイル性能]



必要とされる多種多様な機能を実現させるため、さまざまな素材や加工条件を設計し、独自のパイルを生み出す。

④ 製品設計技術 [ハンドル設計]



優れたダストコントロール機能と耐久性、使用における安全性を担保するために最適な素材を選定した設計。



STEP 1 「おいしい安心」をかんがえる

商品の開発段階ごとに、各部門から構成される「安全確認会議」を開催、安全性に関する厳しい審査を行う。



STEP 2 「おいしい安心」をつくる

大切な原材料を最良の環境で生産できるよう、原材料工場での定期的な監査を実施。約400項目をすみずみまで確認する。



STEP 3 「おいしい安心」をはこぶ

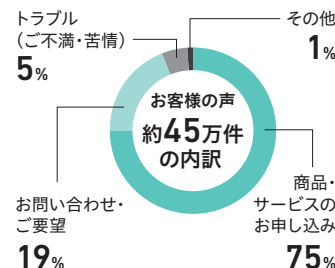
原材料を全国のショップに届けるための物流センターでは、定期監査で施設管理状態など約300項目を入念にチェック。



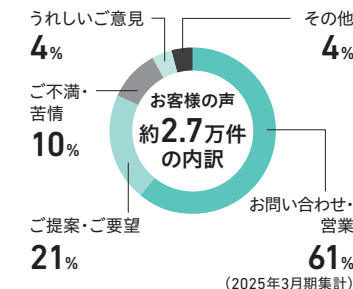
STEP 4 「おいしい安心」をつたえる

ショップでの衛生管理を日々綿密に行うほか、専門部門の検査員によるサニタリーチェックを全店で自主的に実施している。

ダスキンコンタクトセンター



ミスタードーナツお客さまセンター

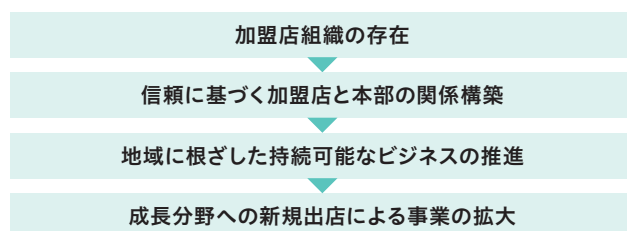


加盟店とともに

基本的な考え方

ダスキンならではの強みに、加盟店組織の存在が挙げられます。1966年に初の加盟店組織となるDFC全国連合会(現 ダスキンフランチャイズチェーン全国加盟店会)が発足。その後、事業の多角化に伴って加盟店組織が次々と設立。加盟店と本部が運命共同体として、世の中に「喜びのタネまき」を実践しています。

▶ 価値協創フロー



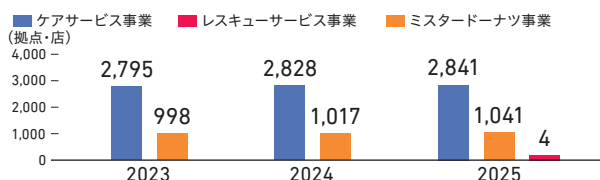
▶ マテリアリティ・KPI

マテリアリティ

共に成長し競争力ある事業の拡大

主な指標	2028年3月期目標	
ケアサービス事業	新規出店数 (3年間)	300拠点以上
レスキューサービス事業		100拠点以上
ミスタードーナツ事業		120店舗以上

● 拠点・店舗数実績(各年3月期)



ダスキンフランチャイズチェーン 全国加盟店会

発 足 1966^{※1}年
加入数 1,574店

ダスキン 生産協栄会

発 足 1969^{※2}年
会員数 45事業所

ミスタードーナツ フランチャイズ共同体

発 足 1972年
加入数 1,034店



ダスキンファミリー
では現在、

6事業の 加盟店組織 が活動

ダスキン全国ケアサービス 加盟店会

発 足 1977^{※3}年
会員数 1,165店

全国ダスキン レントオール・ ヘルスレントコミュニティ会

発 足 1983^{※4}年
会員数 287店

ダスキン ユニフォームサービス フランチャイズチェーン会

発 足 1985^{※5}年
会員数 213店

会員数・加入数等は2025年3月末現在

※1 DFC全国連合会(1966年発足)から変遷を経て、2003年に現在の加盟店組織が発足 ※2 生産懇話会(1969年発足)より1988年に現在の名称に変更

※3 全国サービスマスター会(1977年発足)より2004年に現在の名称へ変更 ※4 ユナイテッドレントオールコミュニティ(1983年発足)より2014年に現在の名称へ変更

※5 ユニケアコミュニティ(1985年発足)より2005年に現在の名称へ変更

どの加盟店組織も人づくりを重視

加盟店組織は、各地域を代表する理事により構成されています。本部と協働し、共に成長することを目的に、定期的に話し合いの場を設け、現場や地域の声を届けたり、成功事例を共有したりしながら、独自の企画や施策に取り組んでいます。

どの加盟店組織も共通して、最も力を入れているのは、人づくり。加盟店組織ごとに趣向を凝らして、大会や教育研修などを企画し、全国の加盟店が一体となり進めています。

1店でできないことを皆で実現

課題やテーマに応じた委員会活動も活発です。現場の声や気付きを基にアイデアを出し合って商品・サービスを実現したり、加盟店や地域の成功事例を発信・共有し、新たなチャレンジにつなげたりしています。時代が変わりゆくなか、営業活動の展開や、業務システムの改善、本部施策の推進も積極的に進められ、1店ではできないことを、仲間と共に実現していく、加盟店組織の役割はますます大切になっていきます。

商品・サービスについて、詳しくはサイトをご覧ください。 <https://www.duskin.co.jp/service/>

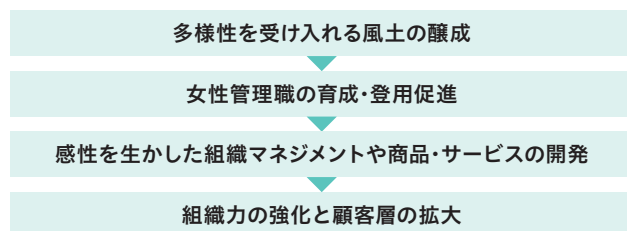
Social

社員とともに

基本的な考え方

多様なキャリアや社会的背景(性別、年齢、国籍、ライフスタイル等)を持つ社員が、お互いを尊重し合い、個々の能力を最大限に発揮することによってこそ、変化し続ける事業環境や多様化するお客様ニーズに効果的に対応し、新たな価値や優位性を創出できると考えています。

▶ 価値協創フロー



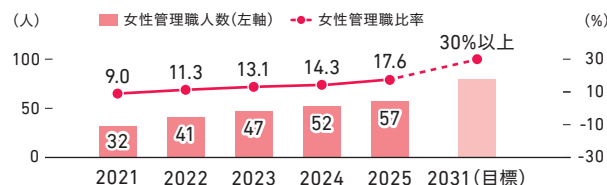
▶ マテリアリティ・KPI

マテリアリティ

多様な人財がいきいきと活躍できる環境づくり

主な指標	2025年3月期実績	2031年3月期目標
女性管理職比率	17.6%	30%以上
男女間の賃金差異	59.7%	格差縮小に向けた取り組み

● 女性管理職人数・比率(ダスキン単体)(各年3月期)

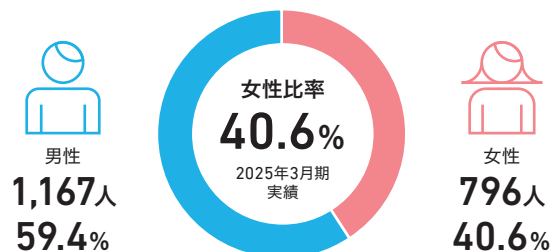


女性の活躍推進

多様な人財の活用により企業の活力を増すためには、女性社員が能力を最大限に発揮できる職場環境づくりが必要です。女性活躍推進法に基づき、行動計画を策定し、能力開発と活躍の場の拡大、働きやすい環境づくり、風土の醸成の観点から取り組みを推進しています。

新卒採用者においては、女性採用比率が概ね50%程度を目標としており、今後も継続する予定です。

全社員に占める女性比率(ダスキン単体)



男女間賃金の差異

当社及び当社グループ会社の賃金制度において、性別による処遇の差はありません。しかしながら、正社員においては、近年改善傾向にあるものの女性の管理職が少ないこと、女性の従業員割合が低いこと、女性の平均勤続年数が短いこと等が男女の賃金差異に影響しています。また、非正規社員においては、平均賃金が相対的に低いパートタイマーの女性割合が高い一方で、平均賃金が相対的に高いフルタイムの男性嘱託社員が多いことなどが全社員の男女間賃金の差異に影響しています。

▶ 今後の取り組み

格差縮小に向けた施策を継続的に実施します。

- 正社員
 - ・女性管理職の登用促進(女性管理職比率30%以上目標)
 - ・女性社員比率を高める(新規採用者の女性比率50%目標)
 - ・女性社員の意識改革(選抜研修の実施)など
- 非正規社員
 - ・女性割合が高いパートタイマーの処遇向上など

男女間の賃金差異(ダスキン単体)



(2025年3月期実績)

人財について、詳しくはサイトをご覧ください。

▶ <https://www.duskin.co.jp/sus/social/>

ダイバーシティ

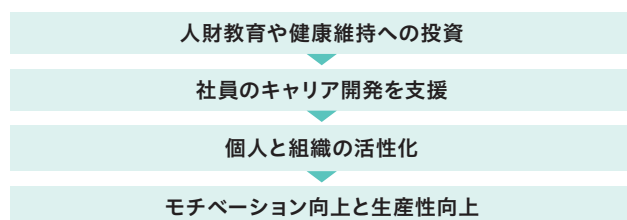
▶ <https://www.duskin.co.jp/sus/social/diversity/>

社員とともに

基本的な考え方

社員一人ひとりがやりがいを持っていきいきと働き、健康で仕事と家庭生活を両立しながら、個々の能力を最大限発揮し、達成感・貢献意欲が高まるよう、キャリア実現を支援するとともに、働き方改革や健康経営を推進するなど、働きやすい環境づくりに努めています。

▶ 価値協創フロー



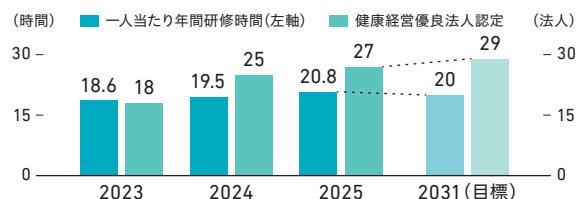
▶ マテリアリティ・KPI

マテリアリティ

多様な人財がいきいきと活躍できる環境づくり

主な指標	2025年3月期実績	2031年3月期目標
一人当たり年間研修時間	20.8時間	20時間以上
健康経営優良法人認定	27法人	29法人

● 一人当たり年間研修時間・健康経営優良法人認定(各年3月期)



社員の成長とキャリア実現支援

あらゆるサービスの基本は「人」だと考えています。この考えのもと、さまざまな教育研修を通じて「人づくり」を進めており、自分自身の能力の再確認と役割認識を新たにすることで、会社への貢献意欲の再設計を行うとともに、自身のキャリア開発について考える機会を提供しています。

人財育成方針

1. 経営理念を理解し、すべての行動の源とできる人財を育成する
2. 一人ひとりが必要な知識やスキルを修得し、役割を効果的に果たすための育成を行う

全社教育

OJT Off-JT	事業部別研修	キャリア開発研修
	全社研修(理念教育等)	スキルアップ研修
	外部選抜研修	階層別研修
自己啓発	能力開発支援(通信教育・資格取得奨励制度等)	

▶ リスキリングとDX人財育成の取り組み

社員の自律的な学習支援の一つとし、学びたい時にいつでも学ぶことができる教育プラットフォーム「Udemy Business」を導入し、知識習得や次への成長につながる学びを提供しています。

udemy business™

ウェルビーイングの充実

ダスキン健康宣言を通じて健康経営に取り組み、日本健康会議が運営する「健康経営優良法人」に毎年認定を受けています。今後も、会社(事業所)・健康保険組合・労働組合による三位一体の体制で、グループ会社すべての認定取得を目指してまいります。



社員の健康診断等の結果(各年3月期)(ダスキン単体)

	2021	2022	2023	2024	2025
一般定期健康診断受診率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
精密検査受診率(%)	56.1	65.6	49.3	59.7	44.8
適正体重維持者率(%)	65.5	66.9	66.3	63.6	64.7
喫煙率(%)	26.7	25.0	22.0	25.2	22.5
運動習慣者比率(%)	26.2	30.6	30.1	29.5	31.6

▶ 『くるみん』認定を取得

2023年に厚生労働大臣より「子育てサポート企業」として2度目の『くるみん』認定を取得しており、すべての社員のワーク・ライフバランス実現に向け、職場環境の整備・意識改革に努めています。



人財育成

<https://www.duskin.co.jp/sus/social/bringup/>

ワーク・ライフバランス

<https://www.duskin.co.jp/sus/social/worklife/>

健康経営

<https://www.duskin.co.jp/sus/social/health/>

安全・安心で持続可能性に 配慮した調達		地域社会との共生	
主な指標		2025年3月期実績	2026年3月期目標
製造委託先食品工場 定期監査実施率		100%実施	100%実施
出前授業/ 教員向けセミナー		400校/17会場	400校/25会場
防災サポートサービス 自治体との協定締結		93件	130件

地球環境とともに

ダスキン環境ビジョン2050 (DUSKIN Green Vision 2050)

現代社会は、経済・技術・文化が発展・進化している一方で、地球温暖化、廃棄物処理、天然資源の枯渇等の環境問題が深刻化しています。企業は単に経済的利益を追求するだけではなく、環境への配慮など社会的責任を果たし、持続可能な社会を目指すことが求められています。私たちダスキンは、未来のありたい姿として「ダスキン環境ビジョン2050」を掲げ、「資源循環社会」「脱炭素社会」「環境共生社会」が実現するサステナブルな未来を築くために、4つのグリーンにチャレンジします。

ダスキン環境目標2030 (DUSKIN Green Target 2030)

循環型社会づくりに向けて、フード事業では食品ロス量の削減や食品廃棄物リサイクル率の向上を目指し、クリーンサービス事業ではモップ・マットの再商品化率を維持します。また、グループ全体では化石資源由来プラスチックの削減、容器包装プラスチックのリサイクル率向上を目指しています。脱炭素社会の実現に向けては、自社グループ拠点での再生可能エネルギー利用率や軽商用車EV比率を増加させ、CO₂排出量の削減を目標にしています。今後も、サステナブルを目指す企業として環境保全と企業経営の両立に取り組み、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

廃棄物削減、
資源の有効活用により
循環型社会づくりに貢献します。

食品ロス量
50%減 (2001年3月期比)

食品廃棄物リサイクル率
75%

モップ・マットの
再商品化率
97%維持

容器包装プラスチック
リサイクル率
60%

化石資源由来ワンウェイプラスチック排出
25%減 (2021年3月期比)

気候変動への対応により
脱炭素社会の実現に
貢献します。

ダスキングループ拠点 再生可能エネルギー利用率
50%

ダスキングループ拠点 軽商用車EV比率
30%

ダスキングループ拠点 CO₂排出量
46%減 (2014年3月期比)

ダスキン環境ビジョン2050

人と社会と地球をつなぐ、豊かな未来へ

人と社会と地球が調和する「未来へのタネ」をまき、
心豊かでサステナブルな未来の実現に貢献します。

目指すべきサステナブルな未来社会

資源循環社会

資源効率・循環を当たり前に

脱炭素社会

カーボンニュートラルを目指して

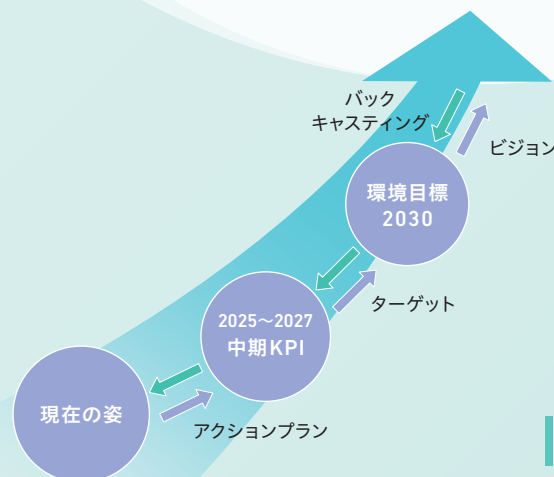
環境共生社会

人と自然のつながりを豊かに



環境ビジョンの位置付け

ダスキン環境ビジョン2050は持続可能な社会の実現に向けて、2050年の「ありたい姿」をビジョンとして定義し、バックキャストिंगの考え方により、2030年のターゲット目標の明確化や、中期のアクションプランの実効性がより高まる一貫性ある「環境ビジョン」として位置付けます。



環境について、詳しくはサイトをご覧ください。

<https://www.duskin.co.jp/sus/ecology/>

地球環境とともに ～気候変動への対応～

気候変動への対応

当社は、気候変動に関するリスクと機会を重要な経営課題と認識しており、気候関連財務情報開示タスクフォース(Task Force on Climate-related Financial Disclosures、以下TCFD)の提言への賛同を表明しています。TCFDの提言に基づき、気候変動に関連するリスクや機会の分析を行うとともに、戦略、リスク管理、ガバナンスなどの観点から情報開示を進めています。



▶ ガバナンス

気候関連リスク・機会に関する取締役会の監督及び評価とマネジメントにおける経営陣の役割

当社は、気候関連のリスクと機会による影響を評価し、経営戦略に統合するため、2017年より取締役会の諮問機関として「サステナビリティ委員会」を設置しています。

当委員会では、気候関連のリスクと機会に対する基本方針や指標と目標設定のほか、主要施策の検討・審議・評価・改善を担うことで、取締役会がリスクと機会の実態を把握・監視できる体制を整備し、気候変動に関するガバナンスの強化を進めています。

サステナブル経営の推進体制

▶ <https://www.duskin.co.jp/sus/management/sustainable/>

環境マネジメント体制

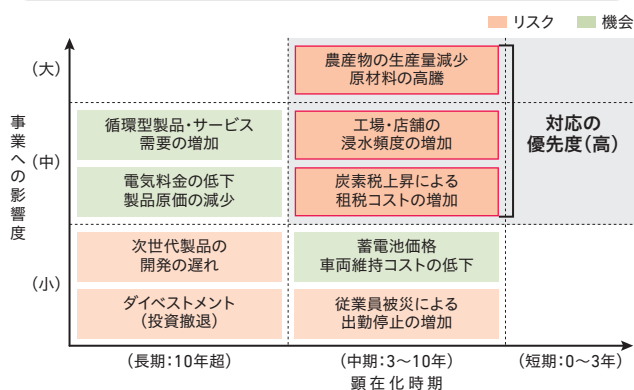
▶ <https://www.duskin.co.jp/sus/ecology/management/>

▶ 戦略

短期・中期・長期の気候関連リスク・機会の特定及び事業・戦略・財務計画に及ぼす影響

気候関連の外部環境の変化を踏まえ、当社にとって重大な財務上または戦略的な影響を及ぼす可能性がある気候関連のリスクと機会を認識しました。更に、「顕在化時期」及び「事業への影響度」の2軸により優先度をスクリーニングすることで、現在特に焦点とすべき3つのリスクを特定しました。

相対的評価によるリスク・機会のマッピング



▶ リスク管理

気候関連リスクを特定し、評価し、マネジメントするための組織のプロセス

気候関連リスク・機会に対する戦略を策定するにあたり、サステナビリティ委員会は経営企画部門とともに各リスク・機会の重要性を評価しています。重大な財務上または戦略的な影響を及ぼす可能性があると評価したリスク・機会は、取締役会に報告し、最終的な経営上の重要性を決議します。

優先度の高いリスクが事業・財務計画に及ぼす影響と対応方針

事業リスク	顕在化時期	事業影響度	財務影響(億円)	対応方針
農産物(小麦、コーヒー、パーム油)の生産量減少、原材料の高騰	中期	大	3.3～14	- サプライヤーとのリスク共有と対策の共同検討 - 複数産地からの調達を前提とした商品開発・設計(調達産地の複線化)
工場・店舗の浸水頻度の増加	中期	中	5.2～9.2	- 災害時の早期復旧に向けたBCPの定期的な見直し - 定期見直しに基づく計画的な設備投資 - 定期的な災害訓練と緊急物資の確保
炭素税上昇による租税コストの増加	中期	中	1.3～4.3	- 環境目標2030「CO₂排出量46%削減」必達による租税コストの抑制 2050年カーボンニュートラルに向けた取り組み

▶ 指標と目標

戦略とリスク管理に即した気候関連のリスクと機会の評価に使用する指標(スコープ1、スコープ2のGHG排出量)

優先度の高いリスクの一つである「炭素税上昇による租税コストの増加」リスクの評価に使用する指標及び目標を以下のように設定しました。

再生可能エネルギー利用率

50%

ダスキングループ(スコープ1、2) 拠点CO₂排出量

46%減
(2014年3月期比)

なお、情報開示の正確性・透明性を確保するため、CO₂排出量及び再生可能エネルギー利用率について第三者保証を取得しています。

TCFDについて、詳しくはサイトをご覧ください。

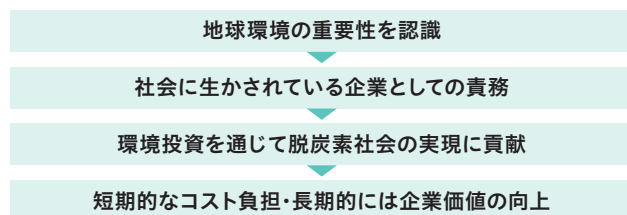
▶ <https://www.duskin.co.jp/sus/ecology/savingenergytcfd/>

地球環境とともに～気候変動への対応～

基本的な考え方

異常気象など気候変動に起因する影響は徐々に深刻化しており、気候変動への対応は地球規模の課題です。当社は、環境経営を推進し、サステナブル企業として持続可能な社会の構築に貢献するため、低炭素社会の実現に取り組み、課題解決に積極的に貢献します。

▶ 価値協創フロー



▶ マテリアリティ・KPI

マテリアリティ

事業活動を通じた環境負荷の軽減	気候変動への対応
-----------------	----------

主な指標	2025年3月期実績	2031年3月期目標
ダスキングループ拠点 再生可能エネルギー利用率	21.6%	50%
ダスキングループ拠点 軽商用車 EV比率	—	30%
ダスキングループ拠点 CO ₂ 排出量(2014年3月期比)	30.6%減	46%減

TNFD提言への対応

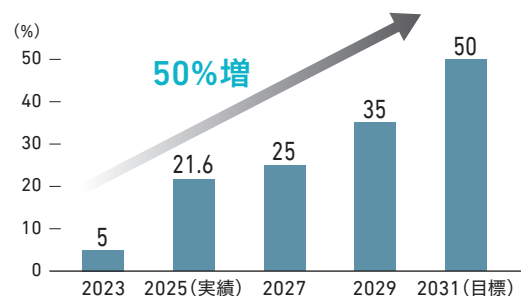
TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)の提言に基づく開示の準備を進めるために、スコーピングを実施しました。この結果をもとに今後、TNFDより開発されたLEAPアプローチにて詳細な分析を行い、TCFDとの統合的な情報開示を進めていきます。

再生可能エネルギーの利用

ミスタードーナツの物流センターや他社から発生する廃棄原材料を使って発電したバイオマス電力で、資源が無駄なく循環するリサイクルループを構築。ダスキン本社ビルを含む周辺施設5拠点や横浜中央工場で、実質再生可能エネルギー100%の電力を利用しています。



●再生可能エネルギー利用率(各年3月期)



営業車両のEVシフト

EV(電気自動車)に切り替えることによる環境負荷軽減効果やランニングコスト、実用性等について実証実験で得られた結果を基に、EVシフト計画を作成し、脱炭素社会の実現に取り組んでいます。



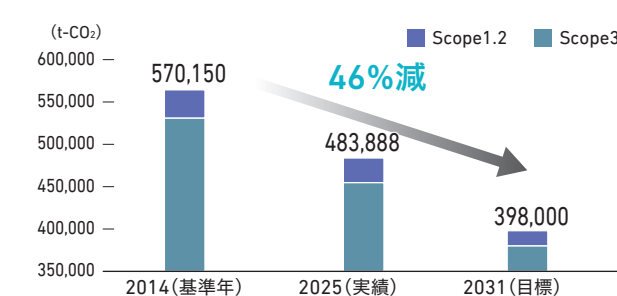
実証実験で使用するテスト車両

バーチャルPPAの導入

ダスキンモップ・マットの製造を行う2工場にバーチャルPPA(環境価値を直接調達する長期契約)を導入。清掃関連レンタル業界初の取り組みとなります。これにより、製造工場における使用電力は再生可能エネルギー実質100%となり、CO₂排出量削減に大きく貢献します。



●CO₂排出量(各年3月期)



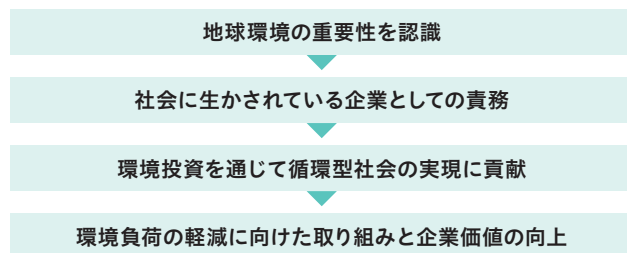
気候変動への対応について、詳しくはサイトをご覧ください。
<https://www.duskin.co.jp/sus/ecology/savingenergy/>

地球環境とともに～循環型社会への取り組み～

基本的な考え方

掃除道具のレンタルシステムを日本に定着させた当社は、ものを大切に、くりかえし使う・みんなで使う・減らす・捨てないという発想で事業活動を展開しています。循環型社会の形成に貢献していくために、限られた資源の有効活用に努めるとともに、ライフサイクル全体で3Rを徹底し、廃棄物発生量の低減に取り組んでいきます。

▶ 価値協創フロー



▶ マテリアリティ・KPI

マテリアリティ



主な指標	2025年3月期実績	2031年3月期目標
食品ロス量(2001年3月期比)	51.5%減	50%維持
食品廃棄物リサイクル率	73.5%	75%
モップ・マットの再商品化率	97.8%	97%維持
化石資源由来ワンウェイプラスチック排出抑制(2021年3月期比)	1.6%減	25%減
容器包装プラスチックリサイクル率	23.2%	60%

食品ロスを減らす取り組み

製造スケジュールや廃棄チェックリストの徹底管理で、食品ロスが少しでも減るよう努めています。それでも残ってしまったドーナツは飼料化処理工場へ運び、家畜の飼料として活用しています。※一部ショップを除く。

食品廃棄物発生量と再生利用等実施率

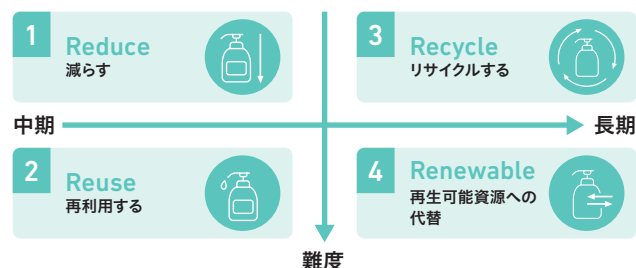
(各年3月期)	2021	2022	2023	2024	2025
食品廃棄物の発生量(t)	4,303	4,735	4,522	5,309	5,302
発生抑制量(t)	2,434	3,264	4,509	5,369	6,379
再生利用等実施率(%)	55.4	59.3	69.1	69.4	73.5

食品ロス削減率

(各年3月期)	2021	2022	2023	2024	2025
食品ロス削減率 2001年3月期比(%)	60.3	55.4	52.8	51.0	51.5

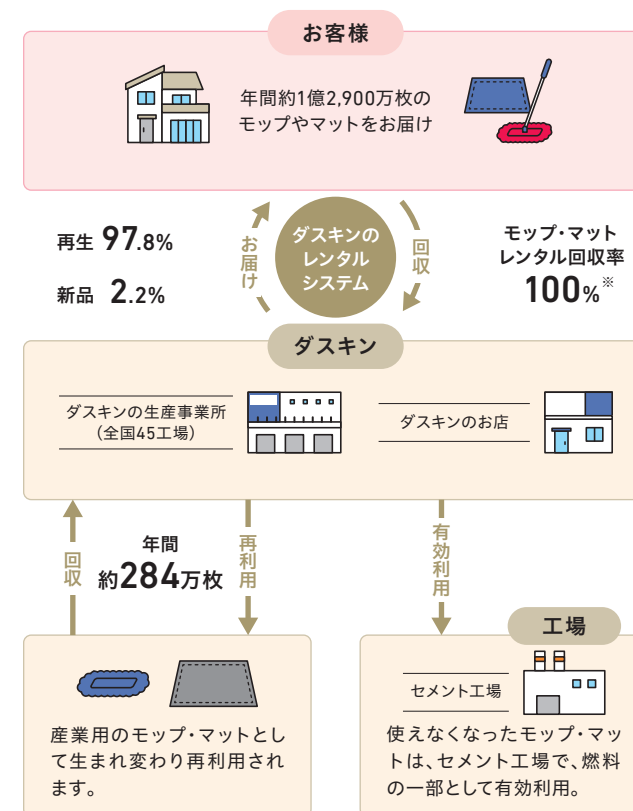
4Rの推進によるプラスチック削減

Reduce/Reuse/Recycleの3Rに加え、再生可能な植物由来原料を利用する施策(Renewable)も推進。容器・包装類のプラスチック利用を減らしています。



モップ・マットの再商品化

使用済みの商品を回収し、工場での洗浄を経て約97%を再び商品化しています。再生できない商品も産業用商品等に二次利用し、最後まで大切に使い切ります。モップやマットについてたホコリや汚れも、セメント工場の燃料の一部として有効活用しています。



※ お客様宅での紛失などの回収不可能な場合を除いた全量

(2025年3月末現在)

循環型社会への取り組みについて、詳しくはサイトをご覧ください。

▶ <https://www.duskin.co.jp/sus/ecology/recycling/>

Governance

株主・投資家とともに

基本的な考え方

当社経営への信頼と適正な評価を得ること及び持続的な成長と中長期的な企業価値向上を目的としたIR・SR活動に積極的に取り組むことを基本方針とし、投資家が投資判断に必要な経営情報を適時・適切に開示するとともに、株主・投資家と対話できる環境づくりに積極的に取り組み、資本市場における信頼の確保に努めます。

▶ 価値協創フロー

コーポレート・ガバナンスの実践と透明性の高い情報開示

株主・投資家との建設的な対話の充実

資本コストの低減と資本効率の改善

株主還元と中長期的な企業価値向上を実現

▶ マテリアリティ・KPI

マテリアリティ

持続的な企業価値の向上

主な指標		2025年3月期 実績	2028年3月期 目標
資本コストや 株価を 意識した経営	・ROE7%以上	5.8%	7%以上
	・株主総利回り (TSR)の向上	43.0% (5年累積)	—
ステークホルダー エンゲージメント の向上	・機関投資家 との対話	94回	年間100回 以上
GPIF採用ESG指数銘柄に継続選定		6つすべて	6つすべて

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応

2025年3月期のROEは5.8%、PBRは1倍を超える水準となり、当社過去水準と比べると高水準となりましたが、更にROE向上を目指します。

当社は、CAPM等により株式資本コストを5%前後と認識しており、現在のROEはこれを上回っています。しかしながら、更なる向上が必要と考えており、「中期経営方針2028」において、最終期である2028年3月期にROE7%以上の目標を掲げて着実に向上を図ります。

「中期経営方針2028」を完遂、着実に目標を達成するとともに、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて、引き続き取締役会での議論を継続していきます。

株主・投資家との対話の実施状況

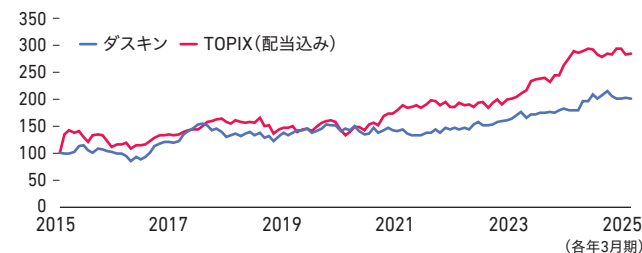
経営企画部IR室長をIR事務連絡責任者と定め、機関投資家向けの決算説明会や1on1ミーティング、個人投資家向けの会社説明会を通じて幅広くエンゲージメントを実施しています。また大株主とのSRミーティングでは、社外取締役も交えた建設的な意見交換を行っています。

IR・SR活動の実績

(各年3月期)	2023	2024	2025
機関投資家向け決算説明会(回)	2	2	2
機関投資家との1on1ミーティング(回)	73	82	87
大株主とのSRミーティング(回)	9	9	8
個人投資家向け会社説明会(回)	6	6	7

▶ 株主総利回り(TSR)

収益性の向上と安定的な配当の実施を継続するとともに、株主資本コストを上回るTSRを実現できるよう実効性の高い財務戦略を実行し、株価を意識した経営に取り組むことで、株主価値の向上に努めていきます。



	1年	3年		5年		10年	
		累積	年率	累積	年率	累積	年率
ダスキン	13.7%	46.5%	13.6%	43.0%	7.4%	106.2%	7.5%
TOPIX (配当込み)	△1.5%	52.5%	15.1%	113.4%	16.4%	188.6%	11.2%

※グラフの値は、2015年3月末日の終値データを100としてTSRによる時価を指数化したもの
※TSRの計算は、ダスキンは累積配当額と株価変動により、TOPIXは配当込みの株価指数により算出(Bloombergデータ、日本取引所グループ月報「3.株価指数・株価平均」等により当社作成)

▶ リサーチ会社を活用した調査レポートの作成

投資家からの当社に対する理解をより深めていただくことを目的として、リサーチ会社によるレポート作成を依頼し、四半期毎に更新しています。

株式会社シェアードリサーチ

・<https://sharedresearch.jp/ja/companies/4665>

アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社

・<https://corporateresearch.astrisadvisory.com/ja/duskin>

株主・投資家とのコミュニケーションについて、詳しくはサイトをご覧ください。

・<https://www.duskin.co.jp/ir/policy/shareholder/>